

平成 30 年度総合技術研究会 への出席

共通機器部門 情報基盤機器管理班 落 祥弘

1. はじめに（目的等）

全国における技術職員の対応技術の方向性や動向を確認するため、上記 研修に参加して技術研修・講演会・ポスターセッション・口頭発表聴講を行う。

2. 期間・場所

期間 平成 30 年 3 月 6 日～3 月 8 日（3 日間）

場所 九州大学 伊都キャンパス(福岡県福岡市西区元岡 744)

3. 参加者等

受講者 全国 技術職員：約 800 名

4. 研修内容

技術研修・講演会・ポスターセッション・口頭発表聴講

5. まとめと感想

機械工作技術及びガラス工作技術交流会（2019/3/6）

べえごま コンテストの参加者による製作内容のプレゼンテーションを行った。参加者からは、機械加工技術者のみでなく、ガラス担当や 3D プリンタ担当、工業系専門学校の実習担当などさまざまな分野から技術アイデアを交流することができた。特に鋳型を用いた事例は地域貢献などにも利用されており、本学でも取り入れることができると感じた。

安全衛生技術講演会・特別講演「新元素の探索」森田 浩介 理学研究院教授（2019/3/7）

被災者生活再建支援をもとに、震災被災地の技術職員による活動内容を聴講した。

被災時の対応を念頭に置いた組織体系・処置体系を構築しておく必要があると感じた。また、特別講演においては、ニホニウム発見にまつわる苦労をうかがうことができた。発見には忍耐・じっくりした研究体制が必要であり、技術職員として研究支援を行う上での重要性を再認識した。

口頭発表 1 (2019/3/7)

各技術分野で聴講を行った。担当する電気系分野以外の担当者から電気分野を用いた技術アプローチが発表されており、技術展開を行う上で参考になった。

ポスター発表 (2019/3/8)

各技術分野の発表者とダイレクトに技術交流を行うことができた。

口頭発表 2 (2019/3/8)

電気・電子・通信系技術分野の座長対応を行った。

座長の義務は発表者の内容を明瞭にする目的で、時間管理や、質問内容などをアドバイスし、参加者の理解が深めることを目的として対応した。